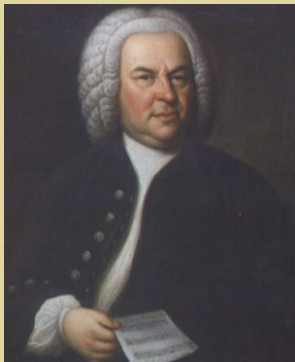


2011●図書館展示 10月

2011●秋テーマ別ガイダンス
声楽作品（独唱曲）と資料の探し方



期間●2011年10月3日～11月4日

場所●図書館ブラウジングルーム・AV資料室

企画・構成●国立音楽大学附属図書館ガイダンス担当

2011 ● 秋のテーマガイダンス

“声楽作品(独唱曲)と資料の探し方”関連展示

2011年10月3日(月)～2011年11月4日(金)

図書館では、2011年秋のテーマガイダンスの総合企画として、“声楽作品(独唱曲)と資料の探し方”と題する一連の催しを行います。その一環として、当館所蔵の声楽の実用楽譜ほか、貴重な楽譜(自筆譜及び初期印刷譜ファクシミリ、全集、原典版)や図書などの展示を玄関ロブラウジングルームで行います。

ジャンルとしては、利用の多いイタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲、宗教歌曲、オペラ・アリアなどを展示いたします。

これらのジャンルについて、色々な探し方をご紹介します。探し出される様々な楽譜(自筆譜ファクシミリや往時の印刷楽譜ファクシミリ、全集楽譜、原典版)や図書を展示いたします。

また、展示期間中には、直接図書館員が展示物を説明し、(貴重書を除く)展示物に触れていただく館員ガイダンスや先生による図書館公開講座:〈ドイツ・リートの魅力語る―「冬の旅」に焦点を当てた楽譜・CD・演奏・レクチャーによるリート・コスモス(宇宙)の体感 講師:本学教員小川哲生先生 ピアノ:江澤聖子先生〉も実施いたします。ぜひご参加くださるようお願いします。

又、“声楽作品(独唱曲)と資料の探し方”関連展示やその他の催しを、これらの資料利用のきっかけにさせていただきたいと願います。

■CONTENTS

1: イタリア歌曲の探し方	2
2: ドイツ歌曲の探し方	4
3: 日本歌曲の探し方	7
4: 宗教歌曲の探し方	8
5: オペラ・アリアの探し方	9
展示資料	10

企画●国立音楽大学附属図書館閲覧参考部ガイダンス担当

《イタリア歌曲の探し方》

1. 探すときのキーワード (例)

「作品名」「[作曲者のつけた]歌曲集名」「作曲者名」「歌曲 イタリア語」「songs italian」「高声」「中声」「低声」「出版社名」

当館OPAC [原語での検索をお勧めします]

① 「作品名」又は「[作曲者がつけた]歌曲集名」が分かっている場合

→タイトルに「作品名」又は「[作曲者がつけた]歌曲集名」を入力し、検索

*「作品名」又は「[作曲者がつけた]歌曲集名」が分かっている場合は、必ずそれらから検索してください。

*複数の作曲者が同一タイトルに付曲している場合、更に、個人名・団体名に「作曲者名」を入力・掛け合わせ検索 (and 検索) して、不要な作曲者の作品を消すことも可能です。

*イタリア古典歌曲と呼ばれる声楽曲 [17, 8 世紀イタリアの単声マドリガーレ、カンツォーネ/カンツォネッタ、カンタータ・オペラ・オラトリオのアリア/アリエッタ/カヴァティーナ等] があります。個々の楽曲の原曲を探す場合は、個々の曲名の他に原曲の曲集名、オペラ名等でも検索する必要があります。

② 「作曲者名」が分かっている場合

→個人名・団体名に「作曲者名」を入力し、検索

*カッチーニ、ヴィヴァルディ、トスティ、ドナウディ、ロッシーニ、ベルリーニ、ヴェルディ、プッチーニ等の作曲家の作品を広く探す場合は、作曲者名だけを入力し、検索します。その検索結果の中に歌曲も含まれてきますので、必要に応じ詳細表示まで見て、歌曲を確認します。見づらい場合は、一覧中の所蔵の欄をクリックし、昇順に並び替え、声楽の楽譜を表すFの請求記号のあたりを目で探します。

*イタリア近代歌曲の場合は、まず、作曲者名を知ることが第1の手がかりとなります。作曲者名を概観したい場合、『イタリアのオペラと歌曲を知る 12 章』p321~327 “近代歌曲における主要作曲家と主な作品”が大変役に立ちます。OPAC に向かう前に下調べをしておくとい良いでしょう。

→タイトルに「作曲者名」を入力し、検索

作曲者を冠した歌曲集を探す場合の一方法です。「プッチーニ歌曲集」というようなタイトルをもつ、楽譜等が検索されます。しかし、タイトル中に「作曲者名」のない楽譜は漏れてしまいます (多少は検索されますが、完璧ではありません)。「作曲者名」は日本語と原語で各々検索する必要があります。

③ 「作品名、作曲者名が分からず、」イタリア歌曲を探す場合

→件名に “songs” [フレーズ] “ital” [フレーズ] で掛け合わせ検索 (and 検索)

*楽譜の場合、この方法が最も多くの検索数を出します (日本語検索では、検索数が減ってしまいます)。

*日本の楽譜を探す場合は、画面右下の和文表示を on にすると、見やすくなります。

*①の検索で探せなかった資料が③の方法で見つかる場合があります。特定の作品について、網羅的に徹底調査する場合は、①に加え、③も行い、詳細表示により、目的の作品が含まれていないか、調査する必要があります。

→タイトルに「イタリア 歌曲」[キーワード]検索 でもある程度は探せます。

→タイトルに、「イタリア」(フレーズ)、「歌曲」(フレーズ) と入力し、掛け合わせ検索 (and 検索) します。

この方法でしか、探せない和書もあるので、上述の楽譜検索の方法に加え、和書の場合は、この検索を行う必要があります。

補足 1: 上記の①②③の入力に、更に、→件名に、「高声」「中声」「低声」[右ボックス: フレーズ] と入力し、掛け合わせ検索 (and 検索) するとある程度声種に対応した楽譜を探すことができます。ただし、基本的に楽譜そのものに“高声用”等と表示されている必要がありますので、表示されていない楽譜は探せません。特に楽譜が原調である場合、“高声用”等の表示をしない出版社もある反面、逆に原調であっても“高声用”のみの表示をしている楽譜もあり、両方を表示する楽譜もあります。よって、この件名検索は「目安にはなるが全ての楽譜を探せる訳ではない」という点をご理解した上で、使うと、大変便利で実用的な探し方となります。(←この補足は全ての歌曲に通用します。以下の文章では略します。更に、同様な省略をする場合、(←以下略) を用います。)

補足 2：上記の①②③の入力に、更に、→出版・発売者名に、「全音」（右ボックス：前方一致）等と入力し、掛け合わせ検索（and 検索）すると出版社毎に探すことができます。外国の出版社の場合は、「Ricordi」（右ボックス：フレーズ指定）等と入力し、掛け合わせ検索（and 検索）するとイタリア歌曲を出版社毎に探すことができます。（以下略）

全集・叢書楽譜目次集（「作曲家全集・楽譜叢書の探し方」参照）（←以下略）

①『個人全集楽譜目次集』

*以下の個人全集の目次集を配備しています。作曲家全集目次集の棚で探して下さい。（←以下略）

（棚のファイルの配列は作曲者原綴りアルファベット順）（←以下略）

ベッリーニ全集、ドニゼッティ全集、ヘンデル全集、ベートーヴェン全集、モーツァルト全集、モンテヴェルディ全集、ロッシーニ全集、A. スカルラッティ全集、ヴェルディ全集、ヴィヴァルディ全集

②『世界音楽大全集』 東京：音楽之友社 1956-1961 目次集 【目次集番号：叢書1505 世界大音楽全集 (3) 声楽 S4】

*当日利用のみ。探している曲が長期貸出になって出払っているときなど便利です。（←以下略）

*「イタリア歌曲集」の他、「ポピュラー歌曲集」「世界民謡集」といった選集があり、イタリア語の歌が収載されています。

*これらのイタリア語の歌の索引は「イタリア歌曲索引」（曾根雅俊編）の中に含まれています。

③『新編世界音楽大全集』 東京：音楽之友社 1989- 目次集

【目次集番号：叢書K47 新編世界大音楽全集 (2) S10】

*刊行時までの、最新校訂を基にしており、解説や日本語訳等も大変参考になります。（←以下略）

*歌詞にカタカナがふられています、そのことに対する批判もあります。（←以下略）

*「イタリア歌曲集」の他、「ポピュラー歌曲集」といった選集があり、イタリア語の歌が収載されています。

*これらのイタリア語の歌の索引は「イタリア歌曲索引」（曾根雅俊編）の中に含まれています。

検索ツール

①「イタリア歌曲集目次集」（当館作成）

*当館所蔵のほとんどの「イタリア歌曲集」（日本及び外国の出版社の楽譜）が一覧でき、その目次を見ることができます。

②「イタリア歌曲索引」（曾根雅俊編）

*歌い出しと曲のタイトルが違う場合等、歌い出しからのタイトルの参照があるので便利、収録対象に民謡、カンツォーネに類する曲も一部含まれています。

*全集・叢書棚のツールコーナーに備えたものには、「イタリア歌曲索引・収録曲タイトル一覧」の頁に当館の請求記号を書き加えているので、日本から出されたイタリア歌曲集が出版社毎に探せます。

2. 調べるときのキーワード（例）

「作曲者名」「作品名」

*古典イタリア歌曲には、作曲者についての問題を抱えている作品（ex:Nina, Caro mio ben）が少なからずあります。そうした作品については、MGG《P0696 塔2 参照》、New Grove《P0696 塔21、22、23 参照》等の最新版を見るなり、最新研究の動向を注視する必要があります。

①『最新名曲解説全集 第21巻 声楽曲Ⅰ』『同 第22巻 声楽曲Ⅱ』『同 第23巻 声楽曲Ⅲ』『同 第24巻 声楽曲Ⅳ』『同 補巻第3巻』 東京：音楽之友社

*第21巻には、カッチーニ、カリッシミ、チェスティ、A. スカルラッティ、ロッティ、ドウランテ、マルティナーニ、パイジェッロ、ジョルダナーニなどの作品の解説を収載、第22巻にモーツァルト、ベートーヴェン、ロッシーニによるイタリア語の声楽曲の解説を収載。第23巻にトスティ、第24巻にアルファーノ、ドナウゼイ、レスピーギ、ピツェッティ、トセルリを収載。補巻第3巻にアルディーティ、レオンカヴァッロの作品解説を収載しています。

*求める作品の収載巻等を調べるには総索引の利用をお勧めします。（←以下略）

*参考図書室用（当日利用）と長期貸出用があります。（←以下略）

②『作曲家別名曲解説ライブラリー』 東京：音楽之友社

*同ライブラリーの、以下の作曲家の巻の中にイタリア語の声楽曲（独唱用）の解説を収載

・ヴェルディ/プッチーニ ・ヴィヴァルディ ・モーツァルト ・ベートーヴェン

*各巻の内容と請求記号を調べるには、→**タイトル**に「作曲家別名曲解説ライブラリー」と入力し、詳細データで確認する必要があります。（←以下略）

*参考図書室用（当日利用）と書庫内資料（学内利用者長期貸出可能）があります。（←以下略）

③当館OPACで探し出した楽譜やCDの解説部分

*特に、他にまとまった解説書がない場合など、貴重な情報源になります。

《ドイツ歌曲の探し方》

1. 探すときのキーワード（例）

「作品名」「[作曲者のつけた]歌曲集名」「作曲者名」「songs german」「歌曲 ドイツ」「高声」「中声」「低声」「出版社名」

当館OPAC

①「作品名」又は「[作曲者のつけた]歌曲集名」が分かっている場合[原語での検索をお勧めします]

→**タイトル**に「作品名」又は「[作曲者のつけた]歌曲集名」を入力し、検索

*複数の作曲者が同一タイトルに付曲している場合、更に、**個人名・団体名**に「作曲者名」を入力・掛け合わせ検索（and 検索）すると、不要な作曲者の作品を消すことも可能です。

*歌曲集からピックアップされ、個々に取り上げられるようになった楽曲を探す場合も、ドイツ歌曲の場合は、個々の曲名の他に[作曲者のつけた]歌曲集名でも必ず検索することを推奨します。（ex:『冬の旅』『菩提樹』『Winterreise』『Der Lindenbaum』『ミルテの花』『献呈』『Myrthen』『Widmung』）

*歴史的に有名な歌曲集は、「[作曲者のつけた]歌曲集名」でない歌曲集名でも探せる場合があります。有名な例としては、シューベルトの「白鳥の歌」『Schwanengesang』が挙げられます。

②「作曲者名」が分かっている場合

→**個人名・団体名**に「作曲者名」を入力し、検索

*バッハ、ハイدن、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、シューマン、ブラームス、ヴォルフ、R. シュトラウス、レーガー、プヒツナー、ベルク、アルバンベルク、ウェーベルン等の作曲家の作品を広く探す場合は、作曲者名だけを入力し、検索します。検索結果の中に歌曲も含まれてきますので、必要に応じ詳細表示まで見て、歌曲を確認します。見づらい場合は、一覧の中の所蔵の欄をクリックし、昇順に並び替え、声楽の楽譜を表すFの請求記号のあたりを目で探します[見づらい場合、更に→**件名**に“songs”と入力し、フレーズ検索するのも一方法として、ある程度有効です][主なドイツ歌曲の作曲者の手ごかりを簡単に知る方法として、歌曲 Wikipedia が役に立つ場合もあります]。

→**タイトル**に「作曲者名」を入力し、検索

主に作曲者を冠した歌曲集を探す場合の一方法です。「ヴォルフ歌曲集」というようなタイトルをもつ、楽譜等が検索されます。しかしながら、タイトル中に「作曲者名」のない楽譜は漏れてしまいます（作曲者名のない楽譜も多少は検索される場合がありますが、完璧ではありません）。

③【作品名、作曲者名が分からず、】ドイツ歌曲を探す場合

→**件名**に“songs” [フレーズ] “german” [フレーズ] で掛け合わせ検索（and 検索）

この方法が最も多くの検索数を出します。日本語検索、「歌曲」 [フレーズ] 「ドイツ」 [フレーズ] の掛け合わせ検索（and 検索）では、検索数が減ってしまいます。ただ、“songs” [フレーズ] “german” [フレーズ] の掛け合わせ検索（and 検索）は、日本語の検索に比べ、重唱等のドイツの歌や、童謡までヒットするので、独唱用のドイツ歌曲を探す場合は、ノイズが多い検索と言えます。

*さらに日本の楽譜を探す場合は、画面右下の和文表示を on にすると、見やすくなります。

*①の検索で探せなかった資料が、③の方法で見つかる場合があります。特定の作品について、網羅的に徹底調査する場合は、①に加え、③も行い詳細表示により、目的の作品が含まれていないか、調査する必要があります。

補足1：上記の①②の入力に、更に、一件名に、“楽譜手稿複製” “Music-Manuscripts-Facsimiles” と入力し、掛け合わせ検索 (&検索) すると、手稿譜・ファクシミリが探せます。しかしながら、例えば、確実にシューベルトの自筆譜を探したい場合は、①②③は入力せず、一件名に、“Schubert Manuscripts” 又は“シューベルト 手稿” でキーワード検索することをお勧めします。

補足2：上記の①②の入力に、更に、“urtext” 又は“原典版” と入力し、左側検索ボックスを、適宜、タイトル、出版・発売者名、注記に変えつつ、フレーズ掛け合わせ検索 (and 検索) すると、原典版の楽譜を探することができます。

* 原典版について

『原典版の手引き』(音楽之友社編集 音楽之友社, 1974 請求記号●C62-146) には、「…〈原典〉とは、本来音楽的に意味されていたものを最大限に忠実に保ちながら、譜面の外見上は近代化された楽譜…」と書かれており、又、「…いわゆる全集版」とく原典版のあいだには、基本的に性格の相違はない。ただあえていうなら、原典版は学問批判的な版であると同時に、実際に演奏に用いるための版で、たとえ指使いの指示なども、必要とあれば含まれるのである。実際に役立つことを重視する結果、いわゆる全集版がより学問的な体裁をとるのに対して、批判的な注解などはやや短くなる。…」との指摘も見られます。「本来音楽的に意味されていたものを最大限に忠実に」という点からは、やはり、学術的考証を十分に経た全集、その全集を刊行している出版社による原典版が、数ある原典版の中でも最も重要な楽譜と言えるようです。又、そうした信頼のおける原典版には、底本(その楽譜を校訂するために選び、使用した資料、主に自筆譜、作曲者が目を通した初版譜、あるいは作曲者が校正刷り等に目を通した初版譜 [刊行のときは、見ることができなかった]、作曲者の書き込みのある楽譜等)についての記述があるので、先の調査・研究につながる重要情報として、確認しておく必要がありそうです。底本についての情報は、序文にのることが多いのですが、序文にはそれ以外の情報も記載されます。例えば、全集出版社による原典版の場合は、全集との関係や、時として、全集とあえて違えている点や、(演奏する際に必要な) 記譜に関する校訂方針がのることもあります。楽譜にとって序文は重要情報が色々つまんだ大切なポイントですが、特に原典版は更に重要度が増すようです。

全集・叢書楽譜目次集

①『個人全集楽譜目次集』

バッハ全集、ハイドン全集、モーツァルト全集、ベートーヴェン全集、シューベルト全集、シューマン全集、メンデルスゾーン全集、ブラームス全集、ワーグナー全集、ヴォルフ全集、マーラー全集、レーガー全集、アイスラー全集

②『世界音楽大全集』音楽之友社 1956-1961 目次集 [目次集番号：叢書 1505 世界大音楽全集 (3) 声楽 S4]

* 「シューベルト歌曲集」「シューマン歌曲集」「ブラームス歌曲集」「ヴォルフ歌曲集」「ベートーヴェン歌曲集」「ロマン派歌曲集」「ポピュラー歌曲集」「世界民謡集」といった選集もあります。

③『新編世界音楽大全集』音楽之友社 1989-目次集 [目次集番号：叢書 K47 新編世界大音楽全集 (2) 声楽編 S10]

* 「シューベルト歌曲集」「シューマン歌曲集」「ブラームス歌曲集」「マーラー歌曲集」「モーツァルト歌曲集」「ベートーヴェン歌曲集」「R. シュトラウス歌曲集」「ポピュラー歌曲集」といった選集もあります。

検索ツール

- ① 「ブラームス歌曲集目次集」 [目次集番号：B1]
- ② 「モーツァルト歌曲・オペラ集目次集」 [目次集番号：M1]
- ③ 「シューベルト歌曲集目次集」 [目次集番号：S1]
- ④ 「ヴォルフ歌曲集 目次集」 [目次集番号：W1]
- ⑤ 「歌曲集・歌曲大全集 内容一覧」

* 下記の作曲家のCDとその解説を探す場合に便利です。(特定作品について、OPACでは探し切れなかった演奏家が、これらの全集の中で歌っている場合があります。)

- ・シューベルト：歌曲大全集 ・シューベルト：女声および重唱のための歌曲集 ・モーツァルト：声楽作品集 ・ブラームス：歌曲集 ・シューマン：歌曲大全集 ・R. シュトラウス：歌曲集
- ・ヴォルフ：歌曲集

2. 調べるときのキーワード (例)

「作曲者名」「作品名」

① 『ドイツ・リート・インデックス1 : Robert Schumann』 佐竹淳・青木裕子〔編〕 国立音楽大学附属図書館 1987 請求記号●C25-841 他 (参考図書室にもあります。請求記号●X080/D/1)

*シューマンのリーートの曲名・曲集名、日本語名、歌い出し、作詞者名/訳者名、調性(音域)、作曲年、出典を一覧し、調べることができます。全集や全集の当館請求記号も参照できるので、全集を使う場合は、大変便利です。シューマンの他にブラームス、シューベルト、ヴォルフがあり、作曲家全集目次集の隣の隣の棚に、4作曲家を合冊した『ドイツ・リート・インデックス』を配備しています。

② 『最新名曲解説全集 第22巻 声楽曲Ⅱ』『同 第23巻 声楽曲Ⅲ』『同 第24巻 声楽曲Ⅳ』『同 補3』音楽之友社

*ドイツ歌曲は、上記の4巻に別れ収載されています。求める作品の解説がどの巻に載っているかを調べるには、総索引を利用すると便利です。

③ 『作曲家別名曲解説ライブラリー』 音楽之友社

*同ライブラリーの、以下の作曲家の巻の中にドイツ語の声楽曲(独唱用)の解説を収載

*各巻は、参考図書室用と貸出用があり、各巻の内容と請求記号を調べるには、

→**タイトル**に「作曲家別名曲解説ライブラリー」と入力し、詳細データで確認する必要があります。

- ・バッハ ・モーツァルト ・ベートーヴェン ・シューベルト ・シューマン ・ブラームス
- ・ワーグナー ・マーラー ・R. シュトラウス
- ・新ウィーン楽派(シェーンベルク、ウェーベルン、ベルク)

④ 主要作曲家の主題目録 <P0696 塔10 参照>

*ドイツの以下の作曲家に対しては、大変優れた主題目録(作品目録のうち、主題[≒テーマの出だし]が付いているもの)が作成されています。当該作曲家のリートや声楽作品の調査はもちろん、諸作品全体を知ることでもでき、次の調査への多くの手がかりを得ることができます。又、これらの目録による作品番号は、検索の際に、重要な検索項目として役立ち、大変便利です。

*当館OPACは、作品番号からも検索できるよう配備しています。

○バッハ (BWV 番号 入力例: BWV 244) <P0696 塔6 参照>

“Thematisch-systematisches Verzeichnis der musikalischen Werke von Johann Sebastian Bach : Bach-Werke-Verzeichnis (BWV) / herausgegeben von Wolfgang Schmieder” 2., überarbeitete und erw. Ausg. Wiesbaden : Breitkopf & Härtel, 1990

○ヘンデル (HWV 番号 入力例: HWV 56)

“Händel-Handbuch. Bd. 2. Thematisch-systematisches Verzeichnis: Oratorische Werke, Vokale Kammermusik, Kirchenmusik / von Bernd Baselt.” Kassel ; Basel ; London : Bärenreiter : VEB Deutscher Verlag, 1984
開架資料: X-044/H236/2 登録番号: C021329

Händel-Handbuch は全4巻あり、1-3巻が Bernd Baselt による作品目録となっています。ちなみに、第1巻は Bühnenerwerke、第3巻は、Instrumentalmusik です。

○ハイドン (Hoboken 番号 入力例: H XXI 2) <P0696 塔8 参照>

“Joseph Haydn. Band II, Vokalwerke : Thematisch-bibliographisches Werkverzeichnis” zusammengestellt von Anthony van Hoboken. Mainz : B. Schott's Söhne, 1971 請求記号●J81-852 他

Hoboken の作品目録は全3巻あります。ちなみに、第1巻は Instrumentalwerke、第3巻は Register Addenda und Corrigenda : Thematisch-bibliographisches Werkverzeichnis です(参考図書室にも 開架資料: X-044/H414/2 登録番号: C012583 があります)。

○モーツァルト (Köchel 番号 入力例:K 165) 《P0696 塔 11 参照》

“Chronologisch-thematisches Verzeichnis sämtlicher Tonwerke Wolfgang Amadé Mozarts : nebst Angabe der verlorengegangenen, angefangenen, von fremder Hand bearbeiteten, zweifelhaften und unterschobenen Kompositionen” von Ludwig Ritter von Köchel. 7., unveränderte Aufl. / bearb. von Franz Giegling, Alexander Weinmann, Gerd Sievers. Wiesbaden : Breitkopf & Härtel ; New York : sole agents in USA, C. F. Peters Corp, 1965, c1964 開架資料:X-044/M93 登録番号:C017124

○シューベルト (Deutsch 番号 入力例:D 911) 《P0696 塔 7 参照 ただし、1950年英語版についての紹介》

“Franz Schubert, thematisches Verzeichnis seiner Werke in chronologischer Folge” von Otto Erich Deutsch. Neuausg. in deutscher Sprache / bearb. und hrsg. von der Editionsleitung der Neuen Schubert-Ausgabe und Werner Aderhold. Kassel : Bärenreiter, 1978 請求記号●J81-853
参考図書室にも、開架資料●X-044/S384/D があります。

⑤ 日本語の事典、作品目録のある作曲家

以下に、参考図書室にある日本語で事典、作品目録が作成された作曲家を挙げます。なお、各事典は参考図書室の X-044 の棚に並べられています。

・バッハ ・モーツァルト ・ベートーヴェン ・ワーグナー ・ブルックナー ・マーラー

《日本歌曲の探し方》

1. 探すときのキーワード (例)

「作品名」「歌曲集名」「作曲者名」「歌曲 日本」「songs Japanese」「日本」「歌曲」「日本歌曲」「[作曲者のつけた]歌曲集名」「日本」「うた」「愛唱歌」「唱歌」「童謡」

当館OPAC

① 「作品名」「[作曲者のつけた]歌曲集名」が分かっている場合

→タイトルに「作品名」「[作曲者のつけた]歌曲集名」を入力し、検索

* 歌曲集からピックアップされ、個々に取り上げられるようにもなった楽曲を探す場合は、個々の曲名の他に歌曲集名からも必ず検索することを推奨します。(ex: 『ひとりの対話』「くちなし」)

* 複数の作曲者が同一タイトルに作曲している場合は、更に、個人名・団体名に「作曲者名」を入力する必要があります。

* 日本語の検索での大きな障害点は表記の問題です。作品名や楽譜名、図書名の表記がどうなっているかによって、検索数がかなり違う場合もあります。中には、入力の際、漢字、ひらがな、カタカナ入力を適宜、柔軟に使い分け、何回かトライしないと網羅的な検索のできないものもあります。

* 助詞の「は」→「ワ」、「を」→「オ」と入力してください。

② 作曲者、作品名を特定できず、日本歌曲を探す場合

→件名に「歌曲 日本」「songs Japanese」と入力し、キーワード検索

別法：→タイトルに「日本歌曲」と入力し、キーワード検索

* 件名と違い、「日本名歌曲…」 「日本の名歌」「日本の歌曲」「日本のうた」等のタイトルのものは検索から落ちてしまいます。

別法：→タイトルに「日本」と入力、更に、件名に「歌曲」と入力し、両者キーワード、掛け合わせ検索 (and 検索)

別法：→タイトルに「日本 歌曲」と入力し、キーワード検索

③ 【唱歌、童謡、歌謡曲等】、必ずしも日本歌曲と呼ばれない日本のうたを探す場合

① ②の方法を試した後、不十分であれば以下の方法で検索してください。

→件名又は→タイトルに「唱歌」と入力し、フレーズ検索

→件名又は→タイトルに「童謡」と入力し、フレーズ検索

→件名又は→タイトルに「歌唱」と入力し、フレーズ検索

→件名又は→タイトルに「歌謡」又は「ポピュラー」と入力し、フレーズ検索

- 件名**に「ポピュラー」「日本」と入力し、キーワード検索
- タイトル**を2つ開き、1つのボックスに「ニッポン」又は「ニホン」と入力し、もう一つのボックスに「歌」「唄」「ウタ」と入力し、両方をフレーズ検索

④ **【個人】全集楽譜に収載されている作曲家、作品**

当館は以下の作曲家の個人全集[作品集]を所蔵し、検索のために、目次集のファイルを用意しています。

- ・[團伊玖磨合唱曲全集] ・[弘田竜太郎作品集] ・貴志康一 ・[小松耕輔作品選集] ・諸井三郎
- ・中山晋平 ・芝祐久 ・[下総皖一作品選集] ・山田耕筰 ・矢代秋雄

2. 調べるときのキーワード (例)

「作曲者名」「作品名」

① 『世界音楽大全集』1956-1961 (音楽之友社) [叢書 1505 世界大音楽全集 (3) 声楽 S4]

[日本歌曲集 : A6-365, A6-366]

*「ポピュラー歌曲集」「世界民謡集」といった選集があり、日本語の歌も収載されています。

*OPAC検索では、検索できず、このシリーズにしか収載されていない作品もあります。(ex:菅原明朗「物思う女」)

② 『新編世界音楽大全集』1989- (音楽之友社) [叢書K47 新編世界大音楽全集 (2) S10]

[ポピュラー歌曲集 : A9-643, A9-894, A10-154]

*このシリーズは「日本歌曲集」が未刊で、「ポピュラー歌曲集」I～IIIに、日本語の歌が収載されています。

③ 『日本名歌曲百選詩の分析と解釈』 黒沢弘光解説 ; 塚田佳男選曲・構成 音楽之友社, 1998

*大変充実した解説が付く、日本歌曲の詩の調査・研究にとっての必読文献です。[<展示>N6 参照]

《宗教歌曲 (オラトリオ、カンタータ、レクイエム、受難曲、ミサ、スターバト・マーテル等の独唱曲を含む) の探し方》

1. 探すときのキーワード (例)

「オラトリオ名」「カンタータ名」「レクイエム名」「受難曲名」「ミサ曲名」「スターバト・マーテル」
「個々の[抜粋]曲名」「作曲者名」

当館OPAC

① 「オラトリオ名、カンタータ名等」又は「個々の[抜粋]曲名」が分かっている場合

→**タイトル**に「オラトリオ名、カンタータ名等」又は「個々の[抜粋]曲名」を入力し、検索

*「オラトリオ名、カンタータ名等」又は「個々の[抜粋]曲名」が分かっている場合は、必ずそれらから検索してください。

*オラトリオやカンタータ等から、独立して歌われることもあり、個々の曲名で探すことのできる作品であっても、必ず全体の作品名 (オラトリオ名、カンタータ名) から検索する必要があります。

*複数の作曲者が同一タイトルに作曲している場合、更に、**個人名・団体名**に「作曲者名」を入力・掛け合わせ検索 (and 検索) すると、不要な作曲者の作品を消すことも可能です。

② 「作曲者名」しか分かっていない場合

→**個人名・団体名**に「作曲者名」を入力し、検索

*バッハ、ヘンデル、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、モンテヴェルディ、ケルビーニ、ロッシーニ、メンデルスゾーン、フォーレ、ドビュッシー、ヴェルディ、プッチーニ等、宗教曲を書いた作曲家の作品を広く探す場合は、作曲者名だけを入力し、更に、必要に応じ、→**件名**に「オラトリオ」「カンタータ 宗教」「レクイエム」「ミサ」「スターバト マーテル」「宗教歌曲」等と入力し、フレーズ掛け合わせ検索 (and 検索) します。

- ③ [作品名、作曲者名が分からず、] オラトリオ、カンタータ等、宗教曲を探す場合
 →**件名**に、「オラトリオ」「カンタータ」「レクイエム」「受難曲」「ミサ」「スターバト・マーテル」等と入力し、フレーズ検索
 *検索結果が大量に検出される場合は、作曲者名順等に並べ替えると、整理して概観することができます。

2. 調べるときのキーワード (例)

「作曲者名」「作品名」

- ① 『世界音楽大全集』『宗教歌曲集』 東京：音楽之友社、1960 [叢書 1505 世界大音楽全集 (3) 声楽 S4]
 *18世紀、19世紀の宗教的作品(カンタータ、オラトリオ、ミサ等)の中から編者：皆川達夫先生が独唱用に選び出した楽曲32曲が収録されています。宗教作品の独唱用レーパートリーの一部とはいえ、傑作揃いの選曲となっており、独唱用、宗教歌曲の入門曲集として、また解説書として、最適な一書と言えます。

《オペラ・アリアの探し方》

1. 探すときの検索語 (例)

「オペラ名」「アリア名」「オペラ」「オペラ 抜粋」「opera」 「高声」「中声」「低声」「出版社名」

当館OPAC

- ① 「アリア名」又は「オペラ名」が分かっている場合

→**タイトル**に「アリア名」又は「オペラ名」を入力し、検索

- * 「アリア名」又は「オペラ名」が分かっている場合は、必ずそれらから検索してください。
- * 仮に「アリア名」の検索で、一定の課題が事足りたとしても、必ず、「オペラ名」で検索し、オペラ全体の楽譜、録音資料を借り出すことをお勧めします。「アリア名」の検索では、どうしても「アリア曲集」や「雑曲集」が多くヒットしてしまいがちですが、歌詞、ピアノ編曲等が適切でない場合もあります。よって、一定レベル以上の楽譜を求める場合は「オペラ」全体の楽譜、特に先生からの特別な楽譜指定がない限りは、作曲者の活躍した国の、定評のある出版社(たとえば、全集を出している等)の最新校訂楽譜を探されることをお勧めします。
- * 「アリア名」の検索では、歌い出しを曲名化したものが想定しやすいですが、その検索で結果が思わしくない場合は、直前のレチタティーヴォ(の歌い出し)からの検索も念のために行ってみてください。なお、歌い出しの曲名化以外の曲名もあるので、「アリア名」の検索では、事前に「アリア名」を事典等で調べておく必要があります。
- * 複数の作曲者が同一タイトルに作曲している場合、更に、**個人名・団体名**に「作曲者名」を入力・掛け合わせ検索 (and 検索) すると、不要な作曲者の作品を消すことも可能ですが、そこまでせず、他の作曲家が混じっていたとしても、目で選び分ける方が、漏れがなくて良い場合が多いです。

- ② 「作曲者名」が分かっている場合

→**個人名・団体名**に「作曲者名」を入力し、検索

- * 検索結果が多すぎる場合は、→**件名**に「オペラ」を入力し、更にタイトル順(昇順)に並べ替えると整理して概観することができます。

- ③ [作品名、作曲者名を特定せず] オペラ・アリア集を探す場合

→**タイトル**に「アリア集」と入力し、フレーズ検索

- * ちなみに、「オペラ」「歌劇 抜粋」の検索は、検索数が多すぎて、新たな検索語を足して、再検索するよう、コンピュータ・システムから促されます。

《展示資料》

《イタリア歌曲》

11 “Le nuove musiche: a facsimile of the Florence, 1601 ed.” New York: Broude Bros, [1973]

請求記号●A5-115

展示箇所: “Amarilli mia bella” p12-13

“Le nuove musiche” Florence 版ファクシミリ。Broude 版と呼ばれることもあります。全集版と同内容の Performers’ Facsimile (請求記号●F18-844f) も所蔵しています。Performers’ Facsimile は学内利用者には、長期貸出が可能です。

12 “A musical banquet, 1610” [compiled by] Robert Dowland; edited by Diana Poulton

London: Scolar Press: sole distributor: B. Jordan, 1977 請求記号●A7-323

展示箇所: “Amarilli mia bella” pXIX

Dowland の編纂したリュートソング集のファクシミリ。Bodleian Library 所蔵資料の複製版 (オリジナルサイズ)。定量記譜法による歌とバスのパートソング。リュート・タブラチュア譜付。

13 “Le Nuove Musiche” ed. by H. Willey Hitchcock

Madison: A-R Editions, 1970 請求記号●A5-920

展示箇所: “Amarilli mia bella” p85-86 欄外に、Robert Dowland によるリアリゼーションとの記述が読めます。数字付き通奏低音の鍵盤楽器用へのリアリゼーション版。

14 『国立音楽大学音楽研究所年報 4』 1980

請求記号●PB102F 4ex

展示箇所: 「G. カッチーニの「レ・ヌオヴェ・ムジケ」のエディションに関する研究」 p41

“Le Nuove Musiche”に関する文献表が検索に大変役に立ちます。1980 年度以降、音楽研究所や所員による G. カッチーニや F. カッチーニに関する論文やバロック演奏法についての研究が続々と掲載されます。

ーパリゾッティ版及びパリゾッティ系諸版ー

“Amarilli mia bella” 原詞の歌詞 “Prendi questo mio Strale” の “dubitar non ti vale” への変更等、共通した特徴が見られます。ハーモニーや音楽記号 (速度、強弱、表情等) もパリゾッティ版が基本的に踏襲されています。

15 “Arie antiche: ad una voce per canto e pianoforte” raccolte ed elaborate da Alessandro Parisotti

Milano: Ricordi, [19—] 請求記号●F19-015

展示箇所: “Amarilli” p15

1900 年代に再販されたものです。“Amarilli” の下欄に 53980-83 の出版番号の表示があります。タイトルの下に原詞 (イタリア語)、その右隅下、楽譜の上に (da “Madrigali”) の補記が見られます。J =66 の表示は、楽譜上、MODERATO AFFETTUOSO の右横及び楽譜の左、CANTO と MODERATO AFFETTUOSO 間の位置、の 2ヶ所にあります。

16 『イタリア歌曲集 1』 中声用第 2 版 編集 畑中良輔 対訳・逐語訳 戸口幸策

東京: 全音楽譜出版社 1998 請求記号●F26-553

展示箇所: “Amarilli アマリッリ” p8-9

タイトルの直下に “Madrigale” の表記があります。歌詞対訳の頁の解説に、“《新音楽 Le nuove musiche》(1602 年) から” “ [註 5 行目は、原典では Prendi questo mio strale] ” “Amarilli:16 世紀の牧歌劇 (pastorale) で用いられた女性の名前” の記述が見られます。

17 『Arie antiche italiane: per mezzosoprano e baritono. 1 イタリア古典声楽曲集 1』

原田茂生編著: 若桑みどり歌詞対訳

Tokyo: Kyo-gei Music, [1990], c1989 請求記号●F16-698

展示箇所: “Amarilli アマリッリ” p6 この楽譜の「はじめに」には、パリゾッティ版由来の諸版が (イタリア歌曲) と称するのは、おかしい、なぜなら、パリゾッティ版に含まれているすべてを (歌曲) と呼ぶのは、適当ではなく、パリゾッティ版のように (古典アリア) という呼び方のほうが実際に近いと書かれています。更に、パリゾッティ版にはアリアと呼ぶには適当ではない作品も含まれているので、この楽譜では、(歌曲集) (アリア集) とはせず、(声楽曲集) という呼び方を採ることにした、とも書かれています。この指摘は、検索結果にも影響を及ぼすイタリア歌曲についての重要な見識として知っておく必要がありそうです。展示した “Amarilli アマリッリ” の楽譜には、タイトルに、「新音楽」(1602 年出版) よりマドリガーレとの補記があります。又、パリゾッティ版にあった J =66 は非表示としています。最終歌詞 “il mio amore” には、パリゾッティ版にはない “il mio amore, amore” という歌い方を楽譜の上に例示しています。

18『古典イタリア名曲撰集』 中声用 川村敬一編著
東京：ケイ・エム・ピー、2006 請求記号●F25-516 他

19『イタリア歌曲集 I = Italian songs』
畑中良輔, 歌唱監修, 荒道子, 大川隆子, 佐々木正利, 常森寿子, 宮原卓也, 歌唱
東京：音楽之友社, 1996 請求記号●F20-125
CD+楽譜・解説・原詩朗読付。音大受験用イタリア歌曲集。

ー非パリゾッティ諸版ー

110 “La flora : arie &c. antiche italiane. Vol. I” raccolte ed edite per cura di Knud Jeppesen.
Copenaghen : W. Hansen, [1949] 請求記号●F6-497
展示箇所：“Amarilli” p12

パリゾッティ版との基本的な違いは、ーパリゾッティ版及びパリゾッティ系諸版ーの注記をご参照ください。最終フレーズだけ取って見ても、両者のリズムや、ハーモニー、バスの動き方、音楽記号（速度、強弱、表情等）の付け方、付く位置等の違いは明らかです。標題の下に (Poesia: Gio. Batt. Guarini) の付記があります。全音版（請求記号●F8-427）も所蔵しています。

111 “Italian songs of the 17th and 18th centuries : for voice and piano” vol 2 Meidum.
[edited, and figured bass realized, by] Luigi Dallapiccola ; English translations by Nicholas Granitto and Waldo Lyman.
請求記号●F4-535 他
展示箇所：“Amarilli” p2-3

Dallapiccola によるリアリゼーション版

Dallapiccola ならではの斬新的かつ個性的なハーモニーが付けられています。歌詞は原詞歌詞に忠実ですが、音楽記号等はパリゾッティとは一線を画し、速度は *Molto moderato*、最終部分を、*poco rall.*, *con fantasia* とする等かなりきめ細かでユニークな指示が書き込まれています。

112『原曲に基づく新イタリア歌曲集』 ジョン・グレン・ペートン, 編著
東京：音楽之友社, 2001 請求記号●F22-366

展示箇所：“Amarilli” p8-9

楽譜左上に、Guarini の記述があります。入手可能な最古の出典に基づく、譜例（速度表示、強弱表示等原典によらない場合は薄く印刷、自筆譜ファクシミリの解説も懇切丁寧）はもちろん、大意、背景、出典（手稿譜番号まで記されたものまである）、発音、歌詞、訳等にいたるまで、大変充実しています。しかしながら、作曲者について、まだ最終決着をみていない “Caro mio ben” を Tomasso Girodani 作としている点など大変気になる点も見られます。やはり、解説等については、一書に頼らず、検索を駆使して色々な資料に当たり調査していただきたい好例と言えましょう。自筆譜の解説に「1601年の出版された「新音楽」…」と記しています。パリゾッティ版の、自筆譜に対する様々な修正を正し、又、装飾音等バロック唱法の可能性もサポートする楽譜になっています。編者は、解説中の出典の項等でもパリゾッティ版を厳しく批判しています。

113『イタリアのオペラと歌曲を知る 12章』 森田学編；池上英洋〔ほか〕著；嶺貞子監修
東京：東京堂出版, 2009 請求記号●J115-563
特に、イタリア古典歌曲、近代歌曲を調べるための必読書と言えます。

114『イタリア歌曲を朗読しよう：歌唱のための発音入門』 森田学著
東京：ヤマハミュージックメディア, 2008 請求記号●J113-773
CDが付きます。演奏のCDと同様、朗読のCDもできるだけ多くのタイプを聴く必要がありそうです。

115 “Dizionario di pronuncia italiana : il DiPI” di Luciano Canepari.
Bologna : Zanichelli, 2009 登録番号●J120850

イタリア語の発音についての事典です。ひきなれておく必要がありそうです。まだ整理中の資料です。参考図書室、イタリア語の棚に配架する予定ですが、正式な開架資料記号は後日つきます。

《ドイツ歌曲》

D1〔主題目録〕“Franz Schubert, thematisches Verzeichnis seiner Werke in chronologischer Folge” von Otto Erich Deutsch. Neuausg. in deutscher Sprache / bearb. und hrsg. von der Editionsleitung der Neuen Schubert-Ausgabe und Werner Aderhold.

Kassel: Bärenreiter, 1978 請求記号●J81-853 (参考図書室にも 開架資料●X-044/S384/D があります。)

展示箇所: “911 Winterreise, op. 89” p572

ドイッチュによるシューベルト主題目録では、各作品についての基本情報 [D[ドイッチュ]番号、標題、op 番号、〔編成又は歌曲、歌曲集〕、テキスト〔作者〕、作曲年月、新旧全集収載巻次、主題(曲頭)、自筆譜、筆写譜、初版、初演、解説、文献など] を調べることができます。巻末の Register (索引) の部には、Generalregister, Besitzer der Manuskriptte, Verleger der Erstaussgaben(bis 1880). Textdichter, Vokalmusik, Instrumentalmusik の各 Register が付いており大変便利です。例えば、Vokalmusik の Register の場合、曲名は正体、太文字で記され、歌い出しは斜体、細文字で書かれ、それらがアルファベット順に並べられています (ex: *Manche tränen aus meinen Augen*, 911/6; *Wasserflut*, 911/6; *Winterreise*, 911)。特に、An den Mond のように同名異曲が多くある場合などは、丸ガッコ内に歌い出しが書かれているので、それを手掛かりにドイッチュ番号を辿り、本文を見ることができます。又、Verleger der Erstaussgaben の Register までであるのは、こうした主題目録の中でも、珍しいことです。

D2〔自筆譜・ファクシミリ〕“Winterreise: the autograph score / Franz Schubert: with an introduction by Susan Youens”

New York: Pierpont Morgan Library in association with Dover Publications, 1989 請求記号●F15-960f

展示箇所: “6. Wasserfluth.” p22-23 “12. Der Leiermann.” p71

The Pierpont Morgan Library music manuscript reprint series の一冊。自筆譜ファクシミリはもちろん introduction や notes も重要です。特に、「冬の旅」の楽譜の諸版や解説書によって言及されることのある “6. Wasserfluth.” の調性、速度表示、音符の書き方 (Wasserfluth の三連符と付点八分音符等)、又、Der Leiermann. の番号、楽譜右上にある in a mol の書き込み等にご注目ください。

自筆譜には “Der Lindenbaum” 最終部分と “Wasserfluth” が同じページに書かれている点もご確認ください。

D3〔旧全集・リプリント〕“Franz Schubert Werke. Kritische durchgesehene Gesamtausgabe.”

New York, Dover Publications 請求記号●A1-827

展示箇所: “VI. Wasserfluth.” p2 (20) “XXIVa. Der Leiermann.” (Ursprüngliche Fassung.) [H moll] p2 (74)
“XXIV b. Der Leiermann.” (Spätere Fassung.) p2 (76) □

Breitkopf & Härtel 社刊の旧全集・リプリント版。旧全集では “VI. Wasserfluth.” のタイトルの表記、Fis moll の楽譜等、新全集との違いが見られます。また、タイトル直下に (Ursprüngliche in Fis, später unverändert in E moll.) の注記があります。“Der Leiermann.” について、旧全集は “XXIVa. Der Leiermann.” (Ursprüngliche Fassung.) [H moll] と “XXIV b. Der Leiermann.” (Später Fassung.) [A moll] の2種類の楽譜を収載しています。

D4〔新全集〕“〔Schubert〕Neue Ausgabe sämtlicher Werke” Hrsg. Von der Internationalen Schubert-gesellschaft.

Kassel, New York, Bärenreiter, 1964- 請求記号●A1-838

展示箇所: “VI. Wasserflut” p134 “XXIV. Der Leiermann.” p189

“VI. Wasserflut” の下欄には*) Die Notierungsweise in den Quellen legt nahe, daß in diesem ganzen Lied Triolen und punktierte Achtel einander rhythmisch anzugleichen sind; Vgl. Quellen und Lesarten. の注記があります。

D5〔新全集校訂報告〕“Kritischer Bericht” von Walther Dürr. Neue Schubert-Ausgabe herausgegeben von der Internationalen Schubert-Gesellschaft Serie IV: Lieder Band 4.

Internationale Schubert-Gesellschaft e.V. Tübingen, c1984 請求記号●A12-077

展示箇所: “XXIV. Der Leiermann” p258

“Vorlagen B. Autographe Reinschrift...” に自筆譜中の “in A-mol” の “書き込み” についての記述があります。(D2 参照)

D6〔Bärenreiter Urtext〕“Lieder, Bd. 3 / Schubert” herausgegeben von Walther Dürr Hohe Stimme
Kassel ; New York : Bärenreiter, c2008 請求記号●F25-321

展示箇所：“6. Wasserflut” p96, p222〕 “24. Der Leiermann” p144, p228

“6. Wasserflut” p96 の下欄には注記が二つあり、*)には、初版や自筆譜の調性 fis-Moll の指摘と、その楽譜のある “Anhang, S. 222” を見よ、との指摘がなされています。**)には、“Die Notierungsweise in den Quellen legt nahe, dass in diesem ganzen Lied Triolen und punktierte Achtel einander rhythmisch anzugleichen sind...” の注記があります。現在は、Urtext のこの注記の影響もあってか、三連符と付点八分音符のリズムについては、一致すべきという見解に傾きつつあるように見えますが、研究者の中には自筆譜（ファクシミリ）を見てもなお、一致すべきという見解に異議を唱える方もいらっしゃいます。“24. Der Leiermann” p144 にも、p96 の*)と同様な注記があり、“Anhang, S. 228” への案内があります。(D2 参照)

D7〔原典版〕『冬の旅；作品89 / シューベルト〕 ヴァルター・デュル編；竹内ふみ子/前田昭雄監訳 高声用(原調)
東京：全音楽譜出版社, 1979 請求記号●F25-891 他

展示箇所：“VI. Wasserflut あふるる涙” p30 “XXIV. Der Leiermann 辻音楽師” p85

“VI. Wasserflut あふるる涙” の下欄には*) Die Notierungsweise in den Quellen legt nahe, daß in diesem ganzen Lied Triolen und punktierte Achtel einander rhythmisch anzugleichen sind...の注記と、この歌全体を通じて、三連符と付点八分音符は互いに一致すべきだ、…原典の記譜のし方に示唆されている。との日本語注記があります。ベーレンライター社 (BA7002)/ヘンレ社 (HN502)の国内出版です。

D8『シューベルト三大歌曲集：歌い方と伴奏法 / ジェラルド・ムーア著〕 竹内ふみ子訳

東京：シンフォニア, 1983 請求記号●C60-201 他

展示箇所：“6. あふるる涙 Wasserflut”

本文に対して、下欄には、ベーレンライター原典版では、“「この歌全体を通じて、三連符と付点八分音符は互いに一致すべきだ、…原典の記譜のし方に示唆されている。」”としている。つまり、ムーアとは異なる立場をとっている。”との注記があります。

D9〔原典版〕“Lieder, Gesang und Klavier, Band I / Franz Schubert” herausgegeben von Dietrich Fischer-Dieskau [musikwissenschaftliche Revision von Elmar Budde] Neue Ausg. Hohe Stimme
Frankfurt : C.F. Peters, c1985 請求記号●F15-554

展示箇所：Anmerkungen “Der Leiermann” p120

“Wasserflut” 等の演奏にも関わる問題として、この楽譜の編者 Elmar Budde の序文中の三連符と付点八分音符の関係についての指摘は大変重要です。“Der Leiermann” の楽譜下、自筆譜の調性の書かれ方 (h-moll) や他者による書き込み (in A-mol) についての注記も重要です。なおこの版は、Friedlaender 編 Peters 版と区別し、Fischer-Dieskau 版あるいは Budde 版と呼ばれることがあり、Peters の新版と呼ばれる場合もあります。

D10『歌曲選集 / シューベルト 2』 原田茂生編著；石井不二雄 歌詞校訂・対訳 Hohe Stimme

東京：教育芸術社, 1984

展示箇所：“Die Forelle ます” p8

この楽譜の「はじめに」に書かれている各版（フリートレンダー編ペータース版等）への指摘は、検索にとっても検討しておくべき重要な問題が含まれています。この選集は全3巻からなり、D番号順に配列され、各巻末に3巻を通しての〔原題〕索引が付きまゝ。展示頁の“Die Forelle ます”では、タイトルの直下に原詩者の表示、楽譜右上に op 号/D〔ドイツ〕番号の表示、その下に作曲年、その下に原調の表示が見られます。各曲について、巻末に編著者ノートがあり、検索・調査にとっても、重要・簡潔な情報（自筆譜の稿、新・旧全集版、ペータース版との違い〔ペータース版の誤記〕等）が得られます。特に、“Die Forelle ます”に書かれている前奏や異稿についての指摘は重要点なので、ドイツ語によるシューベルト主題目録や全集版等で確かめると更なる検索・調査への糸口が見つかるかも知れません。

D11『ヴィルヘルム・ミュラーの詩作と生涯：『冬の旅』を中心に〕 渡辺美奈子著

東京：日本博士論文登録機構, 2010 請求記号●J118-375

東北大学大学院研究科文化学専攻者による2009年度博士論文。著者は本学大学院修了生。ミュラーとシューベルトとの関係にも触れ、自筆譜についても書かれているミュラー研究にはもちろん『冬の旅』研究にとっても、重要な文献です。

《日本歌曲》

N1 『日本の作曲家の作品楽譜所蔵目録 / 青木陽子編』

立川：国立音楽大学附属図書館, 1991 請求記号●C53-999 他

日本歌曲を含む日本の作曲家の作品の楽譜の所蔵目録です。10年余も前の出版ですが、OPACで探さけない場合など、ご利用ください。本文の作曲家目録、曲集名目録の他に、〔編成別〕分類索引、曲名引、欧文タイトル索引、シリーズ名索引が付きます。参考図書室にもメイン・カウンターにも常備しています。

N2 『国立音楽大学音楽研究所年報 4』

国立音楽大学 1980 請求記号●PB102F 4ex

展示箇所：唱歌教材目録（明治編）p61

参考図書室の書架 X080/S の位置に、唱歌教材目録（明治編）部分を抜刷・製本したものを、参考図書として置いています。この参考図書と PB102F 4ex の目録中の当館所蔵の唱歌教材（唱歌集など）に対し、請求番号を補記しています。又、別冊ですが、『唱歌索引（明治編）1. 曲名・歌詞索引』（開架資料：X080/S、請求記号●PB102F 5B2）もあり、この索引で、所収唱歌教材（唱歌集等）を特定し、『唱歌教材目録（明治編）』の本文にあたると、当該唱歌教材（唱歌集等）の請求記号を調べることができます。なお、当館ホームページには、童謡・唱歌索引があり、当館所蔵の大正期～昭和前期（1912～1945）までに発行された童謡・唱歌等を検索することができます。唱歌の楽譜や本は親しみやすい資料が多く、見たり歌ったりする場合は、大変楽しいのですが、研究する場合は、作詞者、作曲者の特定等、注意する必要があります。この目録はそういった調査の出発点としても意義があります。

N3 新編世界音楽大全集 1989-（音楽之友社）〔叢書K47 新編世界大音楽全集（2） S10〕

〔ポピュラー歌曲集：A9-643, A9-894, A10-151

*このシリーズは「日本歌曲集」が未刊で、「ポピュラー歌曲集」Ⅰ～Ⅲに、日本語の歌が収載されています。

N4 『日本の作曲 20 世紀』

東京：音楽之友社, 1999 請求記号●C63-766

20 世紀の日本における音楽創作界史、日本を代表する作曲家（五十音順配列、77 人）の作風解説と作品製作年譜、日本の創造的音楽グループの活動、作曲家名鑑（五十音配列、73 人）を収載。ただし、中田喜直、平井康三郎等といった日本歌曲の有名作曲家が日本を代表する作曲家ではなく、作曲家名鑑の方に振り分けられてしまい、簡単な記述しかない点など、声楽というジャンルから見た場合は、用が足りない面もあります。『音楽芸術』別冊です。

N5 『日本の作曲家：近現代音楽人名事典』 日外アソシエーツ株式会社編；細川周平、片山杜秀監修

東京：日外アソシエーツ, 2008 請求記号●J114-110 参考図書室にもあります。開架資料：X-025/(00)

1247 人の作曲家を収録。記事の長さがまちまちであるが、長さについては業績に対する監修者の評価に単純に比例するものではないと、この本の序に書かれています。どこまで「作曲家」と呼ぶべきか悩んだとも書かれていますので、収録のためのリストアップの基準や方式について、序を読んで確認する必要があるかも知れません。中には、評伝・参考文献の付く作曲家もあり、そういう場合はその次の検索・調査に大変重宝します。

N6 『日本名歌曲百選 詩の分析と解釈 Ⅰ』 黒沢弘光解説；塚田佳男選曲・構成、畑中良輔監修

音楽之友社, 1998 請求記号●J119-996 他

滝廉太郎、小松耕輔、本居長世、築田貞、山田耕筰、斎藤佳三、信時潔、弘田竜太郎、成田為三、大中寅二、橋本国彦、平井康三郎、石渡日出夫、清水脩、團伊玖磨、中田喜直、別宮貞雄、三善晃の作品解説を収載。Ⅱ巻：請求記号●J119-997 他もあります。
*〔滝、瀧の表記については、できる限り原本記述を尊重しました。〕

N7 『童謡・唱歌の旅』

東京：北辰堂出版, 2009 請求記号●J116-182

展示箇所：“高野辰之” p94-95

“故郷” 他童謡・唱歌の名曲についての解説が掲載され、ゆかりの地へのガイド（資料館があれば資料館情報など）が付きまします。高野辰之、中山晋平、野口雨情、北原白秋についての解説もあり、便利です。CDもついています。なお、展示図書に添えて、長野県篠ノ井ゆかりの本学教員（ヴァイオリン）、新井雅至先生ご提供の「高野辰之記念館」パンフレットを参考展示します。

N8 『絵でとく日本の歌：見て読む本』 ヤマハミュージックメディア編；長田暁二監修

東京：ヤマハミュージックメディア, 2009 請求記号●J116-365

展示箇所：“故郷” p64-65

絵本仕立てながら、しっかりと解説がついています。“ウサギ追い”の行事のことも、知っておきたい情報の一つかも知れません。字だけでは判然としない事柄も、絵によって一目瞭然に分かるので、イメージを豊かにするには最適

の一書と言えましょう。

N9 『にっぽんの名曲を旅する. 1』 玉木宏樹 (編曲・演奏) 塩澤実信 (曲解説)

東京: 北辰堂出版, 2010 請求記号●J117-385

展示箇所: “白秋の愛した地 城ヶ島めぐり” p76-77

歌詞にある“通り矢”等の写真も多数収載。白秋記念館や歌碑への行き方も地図で明示。この本を見ているだけでも楽しいのですが、風景・史跡・資料を尋ねつつ、歌の故郷“城ヶ島”を巡ってみては、いかがでしょうか? CDもついています。

N10 『荒城の月: 獨唱 / 瀧廉太郎原作; 山田耕作改編』

東京: セノ音楽出版社, 大正9 [1920] 請求記号●F15-875

歌詞に即した荒涼たる風景の表紙絵をもつ楽譜。編曲の経緯を書いたメモも読めます。

N11 『瀧廉太郎全曲集: 作品と解説』 小長久子編

東京: 音楽之友社, 昭和44 [1969] 請求記号●F4-040 他

独唱, 合唱, 唱歌, ピアノ曲を収載。年譜一覧, 略歴が付いています。

N12 『日本の唱歌; 決定版; 楽曲解説・歌詞発音新案ローマ字表記付き』 藍川由美校訂・編 改訂版

東京: 音楽之友社, 2006 請求記号●F24-626

滝廉太郎作曲“荒城月”(←こう表記したものを、実際は、「荒城の月」と発音したのではないかとの指摘があります。)、山田耕作編曲“荒城の月”、本居長世編曲“荒城の月”の楽譜を収載。巻末の楽曲解説(校訂報告及び資料)で、3版の特徴等を指摘しています。楽曲解説の中では、“葛”の表記方法(“かつら”“かづら”“かずら”)と実際の歌い方についての興味深い指摘が読めます。

NJ1 『山田耕作 作品全集 9 独唱曲 5』 後藤暢子編集・校訂

東京: 春秋社, 1993 請求記号●A10-213

展示箇所: “荒城の月”

全集にしか、収載されていない作品もあるので、他の全集ともあわせて、調べる必要がありそうです。ただし、この全集の各巻末には綿密な校訂報告が付され、資料や校註が大変充実しているので、高い信頼を得ています。

NJ2 『中學唱歌』 東京音楽学校著

[東京]: 東京音楽学校, 1901 発売: 共益商社楽器店

展示箇所: “荒城の月” [頁]三十六

“荒城月”(後“荒城の月”と表記)の初出楽譜。口短調、4/4拍子、8小節。第2小節の嬰ホ音。曲想表示: Andante。歌詞の表記方法、記譜の仕方、強弱記号等が注目ポイントです。

《宗教歌曲 (オラトリオ、カンタータ、レクイエム、受難曲、ミサ等の独唱曲を含む)》

S1 『世界音楽大全集』「宗教歌曲集」

東京: 音楽之友社, 1960 [叢書 1505 世界大音楽全集(3)声楽 S4] 請求記号●A6-379

宗教的声楽曲の名曲を、色々な作曲家で集めたものは珍しいので、入門書としても貴重な楽譜集です。全集・叢書コーナーの叢書側の棚に(請求記号等を記載した)ファイルがあります。

S2 “Complete arias & sinfonias from the cantatas, masses & oratorios: for solo voice, flute, basso continuo/piano in 8 volumes / J.S. Bach.”

Monteux, France: Musica Rara, c1988 請求記号●F16-681

バッハのカンタータ、ミサ、オラトリオから抜粋したアリアとシンフォニアを集めた楽譜選集、フルート付きで、バスソ・コンティヌオはピアノに持ち替え可能です。全八冊あり、各々パート譜が付きます。この他に演奏手段がテノール、オーボエ(オーボエ・ダモーレ)、バスソ・コンティヌオの楽譜集、第9巻があります。

S3 『アリア選集3 / ヘンデル』 [オラトリオ編 2]

東京: 全音楽譜, 1997 請求記号●F25-666

ヘンデルのオラトリオ及びオラトリオ的作品の中から厳選された約30曲を収載。『アリア選集 2 / ヘンデル』 [オラトリオ編 1 請求記号●F25-665] と合わせて利用するとヘンデルのオラトリオのアリアの名曲がある程度概観できます。オラトリオの抜粋を探す場合は、一件名に、“オラトリオ 抜粋”と入力し、キーワード検索し、その中から、アリア集を探します。しかしそれらの曲の中には、一般的には、アリアよりは、歌曲として認識の方が強いものも多数含まれる場合もあるので、注意を要します。

S4〔モーツァルト新全集〕“〔Mozart Neue Ausgabe sämtlicher Werke〕” Hrsg. von der Internationalen Stiftung Mozarteum Salzburg.
Kassel・Basel・Paris・London・New York, Bärenreiter, 1963 請求記号●A1-205
展示箇所：“Exsultate, jubilate”

S5〔メンデルスゾーン全集〕“〔Leipziger Ausgabe der Werke von Felix Mendelssohn Bartholdy, Hrsg. von der Sächsischen Akademie der Wissenschaften zu Leipzig, Serie VI・Geistliche Vokalwerke Bd 11〕 Elias”
請求記号●A12-691
展示箇所：“Es ist genug!/It is enough”

S6〔ハイドン全集〕“Joseph Haydn : Werke Reihe 28 Band 3: Die Schöpfung 1” Hrsg. von Joseph Haydn-Institut, Köln. Hrsg. von Annette Oppermann.
München, G.Henle Verlag, 2008 請求記号●A12-558
展示箇所：Mit Wurd' und Hoheit angetan
“Die Schöpfung 2”はA12-559

S7『ミサ曲・ラテン語・教会音楽ハンドブック：ミサとは・歴史・発音・名曲選』 三ヶ尻正著
東京：ショパン, 2001 請求記号●C65-694
本文はもちろん、豊富な参考文献も大変役に立ちます。

S8『宗教歌曲集：BWV 439-507 = Geistliche Lieder und Arien aus Schemellis Gesangbuch / J.S. バッハ』
大村恵美子訳詞
[東京]：大村恵美子, 1996 (東京, 丸善プラネット (制作)) 請求記号●F21-552
演奏は、独唱と通奏低音が想定されています。歌詞は、ドイツ語と日本語訳詞。「新バッハ全集」第 III 編第 3 巻第 I 部「コラールと宗教歌曲第 I 部 1750 年以前のレパートリー」(フリーダー・レンプ校訂, ベーレンライター, 1991 年)に収められた「シェメルリ賛美歌集からの宗教歌宗教歌曲とアリア」を底本としています。

SJ1〔自筆譜・ファクシミリ〕“Messiah : HWV 56 : autograph, the British Library, London / Georg Friedrich Händel” commentary by Donald Burrows.
Kassel ; London : Bärenreiter, c2008 請求記号●A12-580
展示箇所：“Rejoice greatly, O daughter of Zion.”
英独日のコメンタリーがつきます。メサイアは異稿の多いことで知られています。何版であるか常に意識する必要がありますようです。

SJ2〔自筆譜・ファクシミリ〕“Matthäus-Passion : BWV 244 / Johann Sebastian Bach.” Faksimile nach dem Autograph aus dem Bestand der Deutschen Staatsbibliothek Berlin / herausgegeben von Karl-Heinz Köhler.
Leipzig : VEB Deutscher Verlag für Musik ; New York, NY : O.M.I. [distributor], c1974 請求記号●H18-492#他
展示箇所：“Erbarme dich, mein Gott” [第 39 (47) 曲アリア「憐れみたまえ、わが神よ」より]

《オペラ・アリア》

O1〔モーツァルト新全集〕“Le nozze di figaro”
Kassel, Bärenreiter 1973 請求記号●A1-309 他

展示箇所：“Non più andrai, farfallone amoroso”

『モーツァルト新全集』(ベーレンライター社 [Bärenreiter] 発行) のシリーズ 2、作品群 5、第 16 巻、タイトルバント 2:《フィガロの結婚》第 1 幕、第 2 幕の巻

O2『フィガロの結婚』 堀内敬三訳詞

東京：音楽之友社 [1962] 請求記号●F1-329 他

展示箇所：“Non più andrai, farfallone amoroso もう飛ぶまいぞこの蝶々”
あらすじ及び音楽冒頭部分の索引付き

- O3 『フィガロの結婚』 ピエール=オギュスタン・カロン・ド・ボーマルシェ著；石井宏訳・解説
 東京：新書館, 1998 (The Originals of great operas and ballets) 請求記号●J114-265
 ボーマルシェの戯曲の新訳。“解説 フィガロ、あるいはボーマルシェ 石井宏”も、風雲児ボーマルシェの人物像が垣間見えて大変興味深い。
- O4 『オペラの楽しみ方完全ガイド：豊富な舞台写真 & 29曲収録したCDでオペラの魅力と楽しさを体感!』
 江森一夫編著
 東京：池田書店, 2008 請求記号●J113-621
 展示箇所：“フィガロの結婚 登場人物の喜怒哀楽が沸騰する「狂騒の一日」” p 22~25
- O5 『モーツァルト《フィガロの結婚》読解：暗闇のなかの共和国』 林章〔著〕
 東京：みすず書房, 2007 請求記号●J111-522
 展示箇所：オペラ第4幕、伯爵が伯爵夫人に許しを請う場面の舞台写真 p262
- O6 『フィガロの結婚 / モーツァルト』 アッティラ・チャンパイ、ディートマル・ホラント編
 東京：音楽之友社, 1987 請求記号●C44-007
 リブレット対訳の他に、〔ドキュメンテーション〕原作 ボーマルシェの喜劇《たわけた一日、あるいはフィガロの結婚》、オペラ《フィガロの結婚》の成立をめぐる等々がつく、入門書かつ専門的な図書です。
- O7 『フィガロの結婚 / ボーマルシェ工作』 辰野隆訳 改版
 東京：岩波書店, 1976 請求記号●J114-264
 岩波文庫の一冊。戯曲の作者、ボーマルシェエについての解説も興味深い。
- O8 『フィガロの結婚：モーツァルトの演劇的世界』 松田聡著
 東京：ありな書房, 2009 請求記号●J116-540
 展示箇所：“シュザンヌ” “シュザンヌの扮装をしたルイーゼコンタとされる肖像画” p87
 オペラのイコノロジー 5。著者は、「作品の成立当時の姿について生き活きとイメージを膨らませることが、この傑作オペラをより深く楽しむひとつの有効な方途であると信じ、そういうことへの手引きとなることができれば…」とこの本の目的を述べています。
- O9 『フィガロの結婚 / ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト〔作曲〕』 新国立劇場運営財団営業部編
 東京：新国立劇場運営財団, 2010 請求記号●J118-927
 2010年、公演プログラム、本学出身者の名前も多数見られます。
- OK1 “La folle journée, ou Le mariage de Figaro”
 Paris, Roualt, 1785 請求記号●M7-873(Mはマイクロフィルム番号、通常のご利用はマイクロフィルムでお願いします)
 ボーマルシェの戯曲「狂おしき一日、あるいはフィガロの結婚」。5枚の銅版画が挿入されています。
- OK2 “Costumes et annales de grands théâtres de Paris, Tome 1”
 Paris, [1786] 請求記号●M6-667
 展示箇所：戯曲第2幕第17場、伯爵夫人の小部屋から笑いながら現われるシュザンヌ。
 演じるコンタ嬢は初演時の配役で、衣装はその時のもの（バスク地方の刺繍のある白い服、頭にはトック帽をかぶっています）。
- OJ3 “Le nozze di Figaro : K. 492 : facsimile of the autograph score : Staatsbibliothek zu Berlin - Preussischer Kulturbesitz, Biblioteka Jagiellonska Krakow (Mus. ms. autogr. W.A. Mozart 492), Stanford University Library, The Juillard School Library / Wolfgang Amadeus Mozart” introductory essay by Norbert Miller ; musicological introduction by Dexter Edge
 Los Altos, CA : Packard Humanities Institute, 2007 請求記号●H45-100
 展示箇所：“Non più andrai, farfallone amoroso”
- OJ4 『夕鶴：歌劇 / 團伊玖磨』
 東京：全音楽譜出版社, 1990 請求記号●F16-038
 展示箇所：“与ひょう、私の大事な与ひょう”
 Boosey & Hawkes 刊行の管弦楽総譜に基づくヴォーカル・スコア決定版

《パネル》

* 「ヘンデルの肖像」

ヘンデルは、イタリア歌曲集に収載されることも多く、ドイツ語の歌曲もあり、オペラ、オラトリオの楽譜やCDの出版も多い作曲家です。

* 「バッハの肖像」

音楽的経歴の大部分を教会音楽家として過ごしていたということもあって、宗教的声楽曲はバッハの作品群の中でも重要な位置を占めています。

* 「シューベルトの肖像」

ドイツ歌曲におけるシューベルトの位置は、シューベルト歌曲集の楽譜出版、CDのとびぬけた多さから見ても特筆すべき存在です。

* 「滝廉太郎の写真」

荒城の月、花（二部合唱として発表、独唱のCDも多い）…いまだに、多くの日本人に愛唱されています。

* 「山田耕柞の写真」

全集が何度も出されるほどに、多くの愛唱される歌曲を残し、近年はオペラの再演も行われています。

* 「モーツァルト肖像 義兄ヨーゼフ・ランゲが描いたモーツァルト（1789）」

オペラ、宗教声楽曲に傑作の多いことは周知ですが、ドイツ歌曲史にとっても重要な作曲家です。

* 「こいつはきのうと同じだ」 (“ La folle journée, ou Le mariage de Figaro” . Paris, Roualt, 1785 より) 戯曲第1幕、隠れていたシェリバン(オペラではケルビーノ)が見つかる場面

* 「殺してやるぞ、殺してやる！」。「ではどうぞこの悪たれ小姓めをお殺しくださませ」 (“ La folle journée, ou Le mariage de Figaro” . Paris, Roualt, 1785 より) 戯曲第2幕、伯爵夫人の小部屋からシェリバン(オペラではケルビーノ)が出てくる代わりにシュザンヌ（スザンナ）が現われて驚く伯爵

* 「汚点？そうだろうと思った」 (“ La folle journée, ou Le mariage de Figaro” . Paris, Roualt, 1785 より) 戯曲第3幕、裁判の場面

* 「あなたは貞潔のまま夫の手にゆだねられるのです」 (“ La folle journée, ou Le mariage de Figaro” . Paris, Roualt, 1785 より) 戯曲第4幕、シュザンヌ（オペラではスザンナ）が伯爵に密会のための手紙を渡す場面

* 「おお、なんだこれは！」 (“ La folle journée, ou Le mariage de Figaro” . Paris, Roualt, 1785 より) 戯曲第5幕、密会の相手が実は伯爵夫人だったと知り、驚く伯爵

* “Costumes et annales de grands théâtres de Paris, Tome 1” Paris, [1786] より

展示箇所は、戯曲第2幕第17場、伯爵夫人の小部屋から笑いながら現われるシュザンヌ。演じるコンタ嬢は初演時の配役で、衣装はその時のもの（バスク地方の刺繍のある白い服、頭にはトック帽をかぶっています）

● 展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。（バックナンバーも公開しています。）

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2011/10/11 編集●国立音楽大学附属図書館広報委員会 : 二塚恵里・撰正弘